島の未来ふたつの道（左：松元美月さん田検小6　右：要未来さん久志中3）

前田沙里さん（田検小学校6年）
平成27年宇検村ケンムン
キャラクター応募作品優秀賞

ハブやケンムンと力をあわせ生物と文化の力で島を守りましょう

母方の祖父 西田静馬が

加計呂麻島 西阿室出身

山口県立大学名誉教授

安渓遊地（あんけい・ゆうじ）

生物文化多様性
BIOCULTURAL DIVERSITY

相互に依存してきた人と自然の関係

多様性をもつ植物と動物が、地域の土着の文化的な価値観に基づく行動によって維持されており、その生物多様性のおかげで人々が生きられるような関係（Ankei, 2002）。

田畑真鈴さん（阿室小学校3年）のケンムン

奄美・カミガミの植民地
宗教史の地層をさぐる巡礼の旅

安渓遊地・安渓貴子（生物文化多様性研究所）
陳泌秀（ソウル大）
2022年12月

聞き書き・島の生活誌 ②

ソテツは恩人 奄美のくらし

盛口 満・安渓貴子＝編

「世の中これ以上ひらけてはいかん。」

島から地球の未来を考える

山から海までまるかじり

ボーダーインク

ソテツをみなおす

奄美・沖縄の蘇鉄文化誌

奄美沖縄環境史研究会

安渓貴子・当山昌直編

「ソテツは恩人」

命を支えた先人の知恵

理科＋文科から未来が見える

Missions Etrangères de Paris aux Ryukyu et Amami

奄美・沖縄
カトリック宣教史

【パリ外国宣教会の足跡】

A.ハルブ神父 著／岡村和美 訳／安溪遊地 監修

パリ外国宣教会の
若き神父たちが
奄美・沖縄にかけた
巨大な努力の記録

[推薦]
鄭山健次郎神父
（カトリック鹿児島県大隅教区）
神田善文神父
（カトリック那覇教区・名護教区）
百瀬文晃神父
（元上智大学神学部教授・イエズス会司祭）
オリビエ・シュゴレ神父
（前駐日仏蘭西大使館文化参事官）

南方新社 定価（本体1,500円＋税）

LINKAGE ブックレットシリーズ

島と語る 01: 琉球弧・与論島

高橋そよ 編

LINKAGE Booklet Series

Narratives on Islands 01: Yoron Island in the Ryukyu

環境を「協治（統治＋自治）」*するカミと人（聖と俗）

*環境ガバナンスの意味

種子島のロケット基地近く・写真は　http://ankei.jp トップページ

大島巡礼（2009年8月29日～9月2日）

奄美市大熊で教会型のお墓に注目する

０．奄美の基本：自然がカミ

日本の神道経由ではなく、一神教や科学技術真理教にさらされない人間がもっていた、生きるための基本ではないか。クリスマスツリーに、ヨーロッパの樹木信仰が生きているように。

（安部浩さんからの質問に答えて）

霊水チボリ水を味わう（「自己責任」で）

奄美市大熊にて

四国新聞社
SHIKOKU NEWS
2022年（令和4年）12月8日（土）

海にささげるユタの祈り／奄美大島で権現祭

2010/10/16 15:15

メールで記事を紹介　印刷する　一覧へ

ツイート　B! 0　シェアする 0

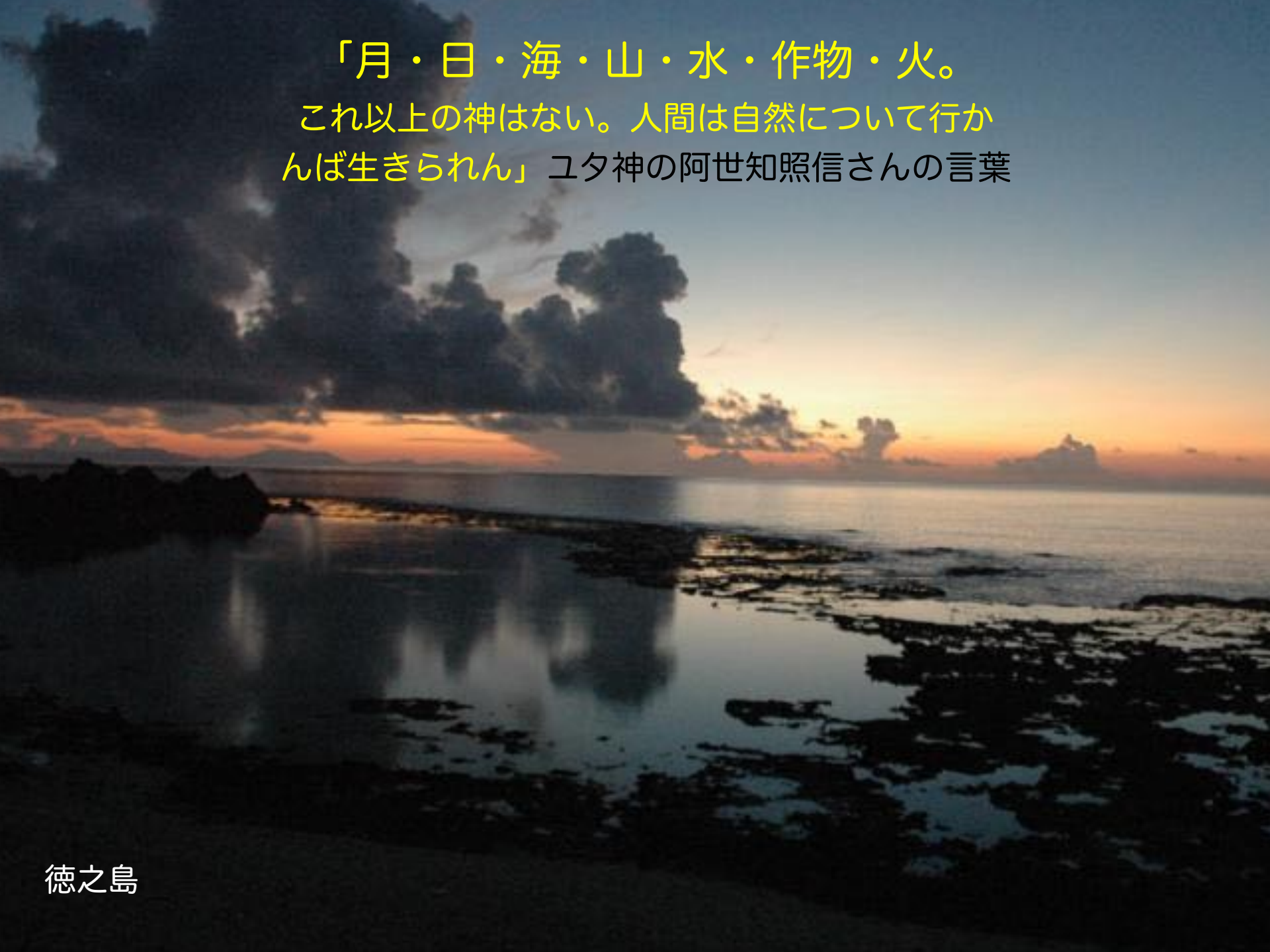
鹿児島県・奄美大島で16日、民間霊能者とし
が海上安全や縁結び、豊作などのさまざまな祈
があり、本土からも参加者が訪れた。

島北部の竜郷町にある海岸で早朝、親ユタと
さん（82）＝奄美市＝ら12人のユタが海水で身
をまとって岩の上に整列。神々を呼び寄せる太
に向かい真剣に祈りをささげた。

ユタは神霊に仕え、呪術や占いなどを行う人
阿世知さんの下には約30人おり、権現祭は40年

ユタとの出会いは数年前という、東京から来
き合うことが、自然環境や生き方などを考える
（38）も「体がきれいになった気がする」と感

「さねんばな」
の佐竹京子さん
の勧めでユタ神
さまを訪ねる


「月・日・海・山・水・作物・火。
これ以上の神はない。人間は自然について行かんば生きられん」ユタ神の阿世知照信さんの言葉
徳之島

ソテツのある風光もカミガミの世界

与路島

航海の難所は祈りの対象になる

大島北部の今井岬

マスコットとして活躍中のキジムナー

ブナガヤ
国頭郡大宜味村の
イメージキャラクター

普段は川底に住み、

保護色によって姿を隠しており、人間と関り合いになることはあまりない。

人間の子供が誤ってブナガヤの手や足を踏んでしまうと、その手にブナガヤ火と呼ばれる火をつける。このブナガヤ火は通常の火と異なり、青みがかった色をしているという。

大宜味村では戦後まで、旧暦8月頃に巨木の上や丘の上に小屋を立ててブナガヤの出現を夜通し待つ「アラミ」という風習が行われていたという。

１．古琉球の時代のノロ信仰

　琉球国王から任命される「ノロ」信仰は、1609年以降の薩摩支配時代に上からの権威付けを失い、明治始めの廃仏毀釈で弾圧を受け、高度経済成長と過疎によって現在は消滅寸前。

　沖縄でさかんな媽祖や土帝君などの中国系の信仰は奄美では希薄である。

国指定無形文化財奄美市秋名の平瀬マンカイ

ノロ（左）と グジ（右）

しめ縄は、昭和35、6年のテレビ撮影の時の追加物 （重田自蔵氏談）。
写真「vagabond の徒然なるままにinネリヤカナヤ」ホームページから

ノロ信仰のアシャゲは随所にある

２．聖地が「神社」になる

　岬や泉や森といった、古くからの聖地が、後に「神社」の場所として選ばれる。新しい「地層」が覆っていても、その下に古い層が埋もれている。その「露頭」を探し当てたい。

奉納する石が航海安全を守る

「海上保険みたいに１個
ずつ石を積んでもって
きたのよ」（阿世知照信）

今井権現の石段及び石碑

指定年月日　平成４年３月10日
所　在　地　安木屋場字大谷

◎　石　段

元禄5年申（1692）為寿上国（与人として上国）石の小座一基と石段用の石を持ち帰り、今井権現に寄進。（石段153段、石数628個、現存）
石質は河頭石、一部に山川石が用いられている。

◎　石　碑

享保11年丙年（1726）9月3日、當島代官職、今井六右衛門寄進。

龍郷町教育委員会

阿世知照信さんは今井権現の宮司である

奄美市笠利　今井権現にて

秋葉権現は火伏の神（加計呂麻島　西阿室）

３．貴人伝説の神社

平家落人伝説の行盛神社（創建は薩摩時代）

龍郷町戸口

源為朝の子　実久三次郎神社

加計呂麻島
実久

平家を祀ったのは、元禄時代（1688-1704）。平家の時代よりもずっと後に薩摩がもってきて拝ませた。

「人を殺した武将を拝む神社」を
拝めば結局は人を殺すことになる。

（阿世知照信さんの言葉）

４．明治になると神社の創建やカミガミの衣替えが進む

- 皇民化への道

厳島神社（享保19年1734年の石鉢あり）とそれを合祀した高千穂神社（明治２年）がある

大和村大和浜
ひらとみ神社に
隣接して

大和村ひらとみ祭を訪ねる（8月29日）

開饒（ひらとみ）神社で安全祈願がされていた

奄美の糖業の元祖・直（すなお）川智を祀った神社、明治十五年創建。

四百年前という、その事跡が黒糖生産の強制への奄美側の反発を少なくするための薩摩藩の創作ではないかという説もある。

古いカミの衣装替え 石神から菅原道真へ

古いカミの衣装替え　山間（やんま）権現

・海賊の見張り所
・平家の岬の番所
・出征兵士の祈願
・疫病天災除け祈願

５．新しいカミガミ続々到着

カトリックは明治から受容

大和村大和浜ひらとみ神社向かい

隣り合って並び立つ教会と神社

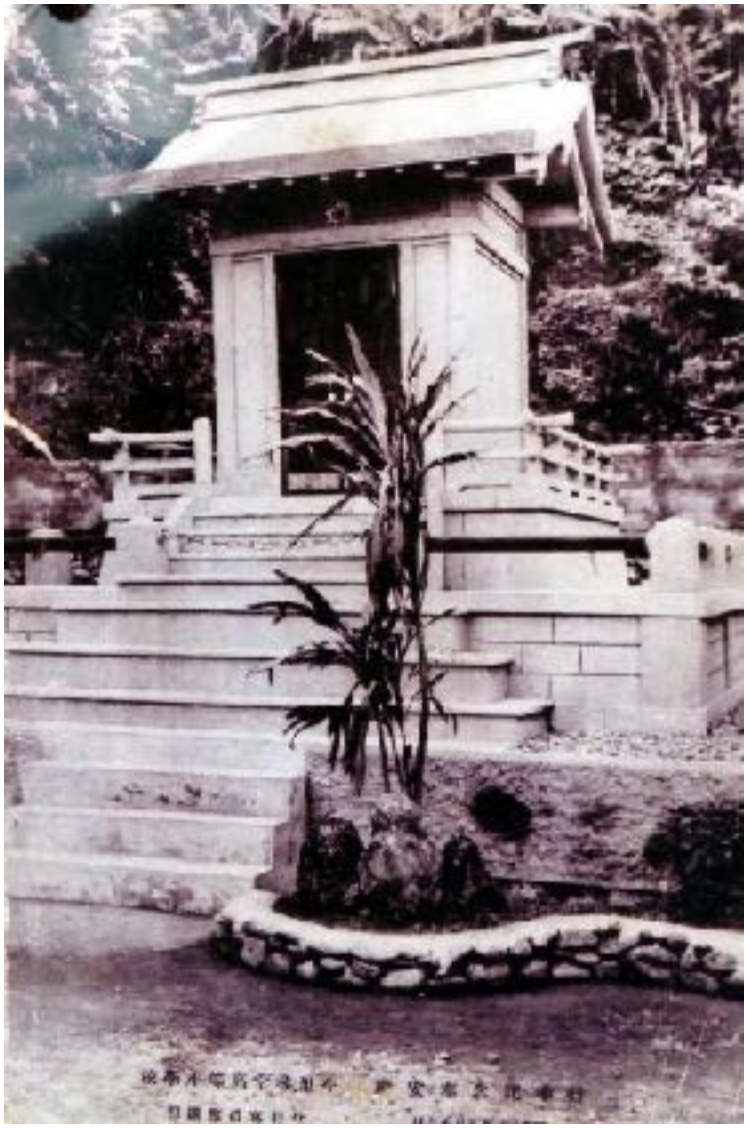
奄美市芦花部

新宗教「おほもと」の奄美進出は大正始め

出口和仁三郎聖師に心酔した西田静馬（西阿室）が先駆

瀬戸内町古仁屋

御真影・教育勅語・奉安殿



皇民教育のため昭和13年に建てられた。

GHQ指令にも撤去されずに残った

加計呂麻島に多く残る奉安殿

昭和10年創建。薩川小学校校庭

６．今も生まれる聖地と神社

- 多様なカミガミを受け入れ続ける心性は、いまも続いている

徳之島の闘牛神社（平成15年建立）

パンプローナのサン・フェルミン祭の熱狂を思い出す

スペイン北部・パンプローナの牛追われ祭 の群像

https://c8.alamy.com/comp/f31mhe/monumento-al-encierro-a-bronze-casting-of-the-san-fermin-festival-f31mhe.jpg

闘牛資料館と創健者の墓所を併設

徳之島町南原海岸

原野農芸博物館入り口のＦＲＰ船

奄美市住用（山下丸）

エジンバラ公の「御真影」を崇める ヴァヌアツ・タンナ島の島民たち

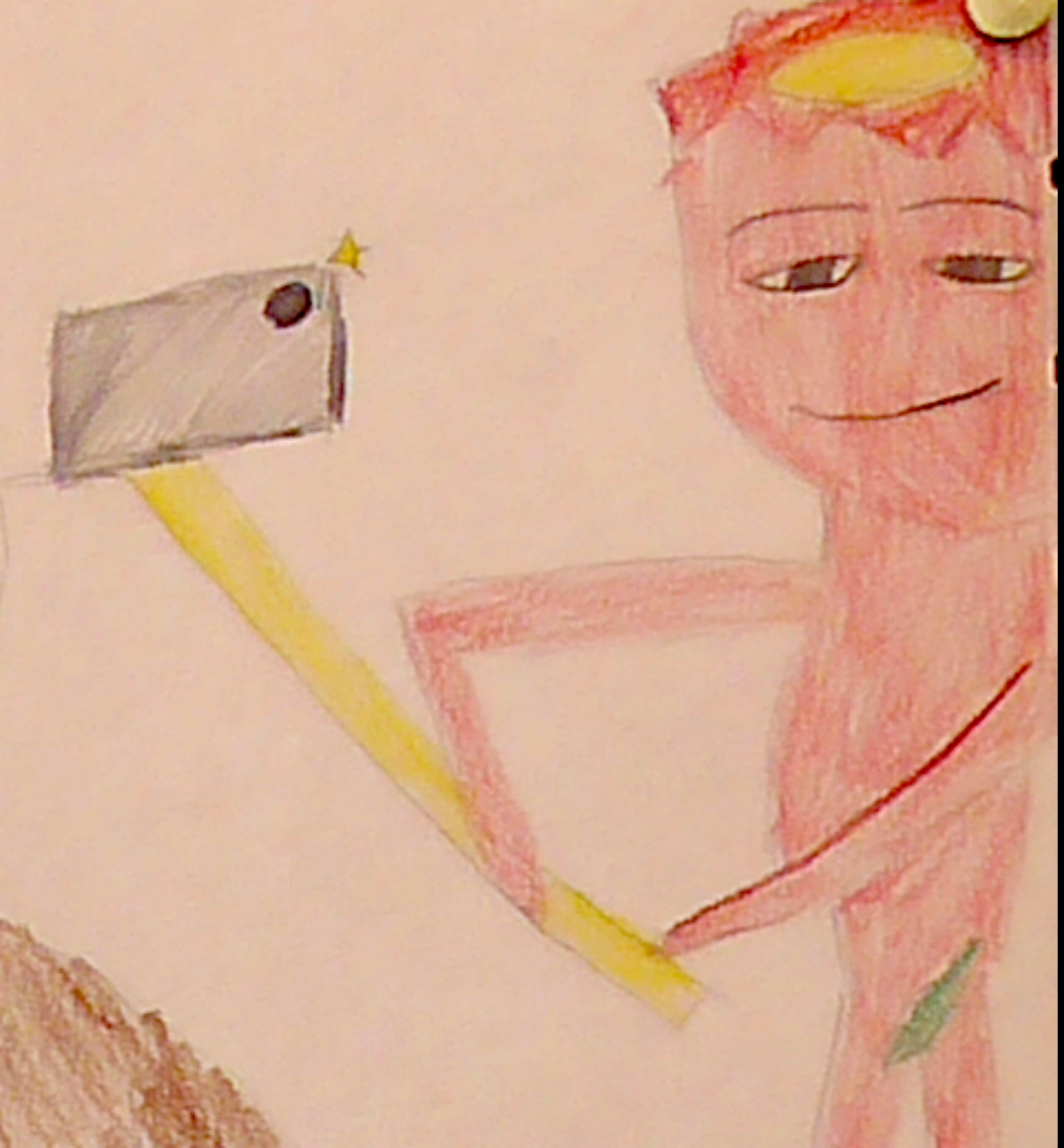
右端の写真は島から贈られた竹槍をもつ殿下。この写真を見せただけで一九八〇年の「タフェア国」独立をめざす反乱は鎮圧された。

http://bohshi.blog13.fc2.com/blog-entry-1208.html

奄美では、中国系を除き
沖縄と比べて多様なカミガミが
現在も同じ場所に共存し、
それぞれの歴史の中で果たした
ガバナンスの役割を終えても
しつこく存続している。
その理由を
考えてみたいものです。

幼いころから ケンムンに親しむ ことの大切さ

奄美パーク展示の子ども達（1964越間誠氏撮影）



スマホと
自撮り棒を
使うケンムン
（拡大図）

米田堯広さん
（田検中３年）

祖先からのねぎらいの言葉